

獣医師の就業環境の未来を考える

—すべての獣医師が働きやすい職場づくりに向けた取組 (13)—

地方獣医師会における取組について アンケート調査結果から

栗本まさ子[†] (公社)日本獣医師会副会長)



はじめに

昨年は、国際婦人年から50年、男女雇用機会均等法の成立から40年、女性活躍推進法の成立から10年という年だった。そして昨年の秋、ガラスの天井が破られて日本初の女性首相が就任したが、日本初の女性獣医師会長の就任はそれより早かった。すでにご案内のとおりと思うが、とても喜ばしいことなので改めてご紹介させていただきたい。福井県獣医師会の大門由美子会長。小動物診療獣医師として動物病院の副院長を務めるかたわら、30年以上学校動物の飼育支援などに積極的に取り組まれ、県獣医師会の理事、副会長を長くお務めの後、自然な流れで会長に就任。なってしまうえば大丈夫！と自然体で活躍されている。

また昨年、日本獣医師会におかれた女性獣医師活躍推進委員会が2030年目標として提案した「女性役員を30%以上に」を、2030年を待たずに3つの地方獣医師会が達成された。滋賀県、高知県、新潟県である。この目標を提案した2019年には3分の1の地方獣医師会にまだ女性役員が一人もおらず、20%にするかどうか検討したうえで30%としたときはかなり厳しい目標だとされたのに、である。

さらに昨年、女性役員が2名以上就任している地方獣医師会が55のうち39(71%)となった。2020年目標として提案していた「女性役員がいない地方獣医師会は1名は女性に、いる地方獣医師会は複数名を女性に」の後半部分の「女性役員がいる地方獣医師会」は目標設定時34だったので、2020年目標の後半部分が達成された。達成できていないことについては後述したいと思う。

女性獣医師活躍推進のための取組状況の調査結果

日本獣医師会では、地方獣医師会のご協力をいただき、女性獣医師の活躍推進のための取組状況の調査を毎年実施してきた。この調査は、女性獣医師活躍推進委員会が企画し、日本獣医師会長から地方獣医師会長に依頼している。平成29年と30年に女性獣医師支援のための取組を実施して「いる」か「いない」か、女性役員を増やすための検討を行って「いる」か「いない」かを聞き、「いる」場合には取組や検討の内容を具体的に記載していただいた。令和元年からは、それぞれの取組や検討について、進捗状況等を把握して委員会での検討に資するとともに、広く取組や検討を促すことを目的として、細かい調査にご協力いただいていた。新たに追加した調査項目もあり項目数が多く煩雑で、まだ続けるの？というご意見もいただいている。

令和7年度の調査結果の概要は、すでに女性獣医師応援ポータルサイトの「女性獣医師活躍推進の取組状況のご紹介」に掲載されているので参照されたい。令和2年は実施できなかったが、令和元年に調査を始めて7年が経過したので、ここではこの間の推移をみてみたい。

○ 地方獣医師会の各職域部会での女性の活躍

調査の最初に職域部会ごとの会員、女性会員と女性部会長等の人数をきいている。部会ごとの女性会員の割合は、令和元年から7年の間に2.0~4.6ポイント増加し、令和元年には副部会長が3名だけだったが、令和3年は部会長13名、副部会長6名、令和5年は部会長13名、副部会長12名、令和7年には部会長22名、副部会長15名に増えた。支部長、副支部長、理事等も増加しており、女性会員の割合の増加に伴い指導的立場に就く女性が増え、活躍が進んでいる。

[†] 連絡責任者：栗本まさ子 (公社)日本獣医師会)

〒107-0062 港区南青山1-1-1 新青山ビル西館23階

☎ 03-3475-1601 FAX 03-3475-1604

E-mail: masakokuri1954@gmail.com

○ 男女別の加入率

加入率は、2030年目標として「女性の獣医師会加入率を男性と同じにする」を2019年に提案したことに伴い、令和3年に追加した項目である。

目標設定時の女性の加入率は男性のほぼ半分であったので大変困難な目標であるとされた。令和3年男性70.5%、女性43.3%（差は27.2ポイント）、令和5年69.0%、42.0%（27.0ポイント）、令和7年68.7%、40.8%（27.9ポイント）であり、全体での達成はやはり難しそうだ（表1、図1参照）。

地方獣医師会ごとの加入率は獣医師数を正確に把握しにくいこと等から公表していないが、女性の加入率が高く目標をほぼ達成されている地方獣医師会も少なくない。

出産・育児等でいったん離職する女性獣医師の退会を避け、獣医師会には加入し続けてもらいやすいよう、その間の会費を減免する制度の創設が進められており、令和元年の6地方獣医師会から令和3年に9、令和5年に18、令和7年には21まで増えている。配偶者がいる場合の会費を減額する、未加入の獣医師とも連絡を取り合い会合や行事への参加を促す等の対策を講じている地方獣医師会もある。

○ 女性役員の数、割合等

会長、副会長、理事等の役員数についても、2030年目標として「女性役員を30%以上にする」を2019年に提案したことに伴い、令和3年に追加した。

他の調査により平成時代の状況も把握されており、平成9年には3名のみだったが、平成19年に23名、平成29年に48名と女性獣医師数の増加に伴って理事・監事も増加し、令和6年に99名となって初めて1割を超え、令和7年には121名となった。平成28年には1名だけだった副会長は令和6年に16名に増え、令和7年には副会長16名と会長1名となった（表2、図2参照）。

令和7年の地方獣医師会ごとの女性役員割合は、0%から33.3%まで幅があるが、「はじめに」でご紹介した3つの地方獣医師会はすでに30%以上であるほか、20%以上が8地方獣医師会、10%以上が21地方獣医師会あり、女性理事枠を設ける等の女性役員を増やすための取組を会長が先頭に立って進めておられる地方獣医師会に成果がみられ、2030年を待たずに目標を達成される地方獣医師会が増えることが望まれる。

表1 女性獣医師活躍推進のための取組状況

	獣医師会会員数（名）		獣医師会加入率（%）		獣医師届出総数（名）	
	男性会員数	女性会員数	男性加入率	女性加入率	男性数	女性数
令和3年度	19,146	5,444	70.5%	43.3%	27,146	12,564
令和4年度	19,206	5,513	71.5%	41.1%	26,845	13,406
令和5年度	18,526	5,628	69.0%	42.0%	26,845	13,406
令和6年度	18,348	5,572	69.7%	39.4%	26,320	14,135
令和7年度	17,783	5,630	68.7%	40.8%	25,876	13,788

※獣医師届出総数については、令和3年度は平成30年12月31日現在、令和4・5年度は令和2年12月31日現在、令和6年度は令和4年12月31日現在、令和7年度は令和6年12月31日現在の獣医師法第22条の届出による。

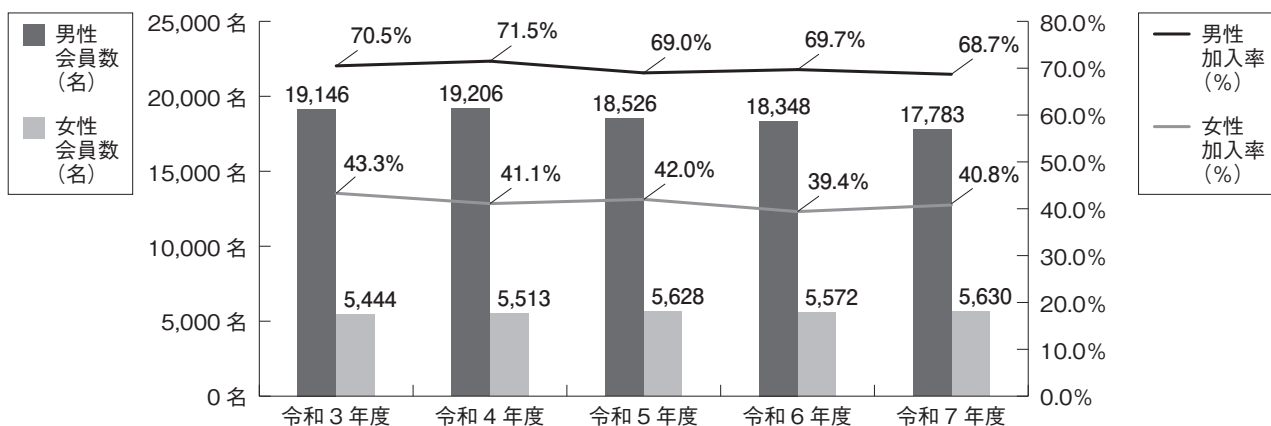


図1 会員構成獣医師数・加入率

表2 役員総数と女性役員数等

	R3	R4	R5	R6	R7
役員総数	974	967	964	962	964
女性役員数	81	84	88	99	121
(割合)	(8.3%)	(8.7%)	(9.1%)	(10.3%)	(12.6%)
うち会長	0	0	0	0	1
うち副会長	7	7	13	16	16
女性役員が就任されている 地方獣医師会数	45	49	49	49	49
うち女性役員2名以上	22	22	27	31	38

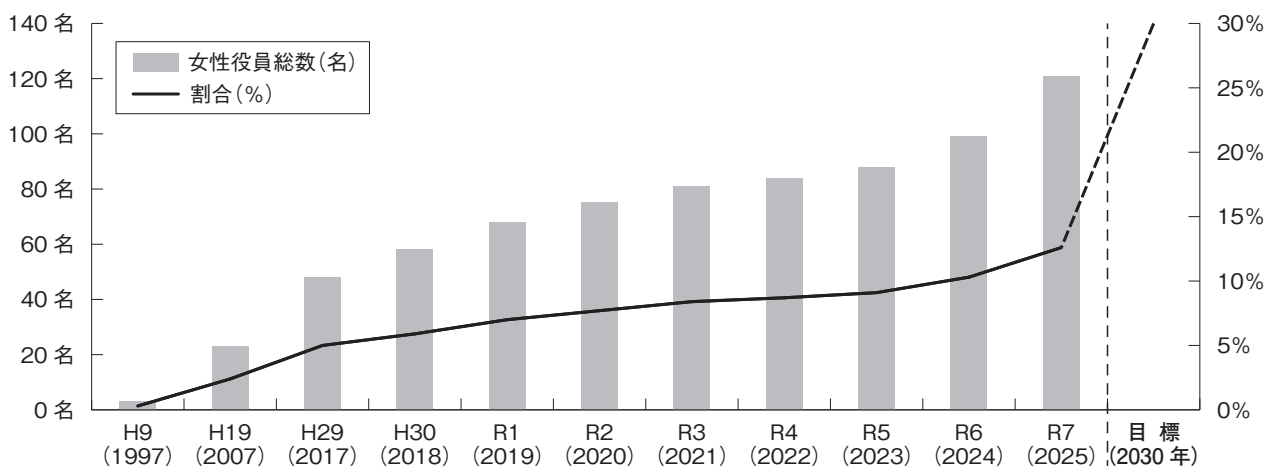


図2 女性役員総数及び役員総数に占める女性の割合

○ 女性獣医師活躍推進のための取組

地方獣医師会における女性獣医師活躍推進のための具体的な取組について、実施している地方獣医師会数の推移は取組ごとにさまざま、前述した育休等の際の会費減免制度やホームページへの女性獣医師応援ポータルサイトのバナー掲載のように取組を行っている地方獣医師会が年々増加している項目がある一方、増加していない、いったん増加したのち停滞している項目も多い(表3参照)。

人材バンクの設置については地方獣医師会ごとの対応は進んでおらず、日本獣医師会が対応すべき女性獣医師活躍推進のための取組の優先順位をきいた設問で、人材バンクの創設が最重要とした地方獣医師会が令和元年から7年までを通じて最も多かった。獣医師の人材バンクの創設については、育休等の制度が整う一方で周囲への気兼ねなく休みたい等の意見が多く、女性獣医師活躍推進委員会でも育休等取得者の代替要員確保、離職後の復職を容易にするため、日本獣医師

表3 地方獣医師会における女性獣医師活躍推進の取組

質問内容	R1	R3	R4	R5	R6	R7
	回答数(地方獣医師会)					
女性獣医師数について地方会の調査で把握している	5	4	3	3	4	3
女性獣医師数について国・都道府県等のデータで把握している	11	8	7	10	10	12
未就業女性獣医師のための取組を実施している	2	2	2	3	4	4
女性獣医師に関わる委員会の設置している	6	7	5	6	6	6
女性会員を増やすために取り組んでいる	6	6	10	6	5	9
女性役員を増やすために取り組んでいる	15	20	13	13	14	15
育休等の際の会費減免制度を設けている	6	9	14	18	20	21
育児・介護休業規程等を設けている	—	11	11	15	16	15
人材バンクを設置している	2	2	2	2	2	2
女性獣医師復職支援研修等を開催している	2	1	2	2	2	2
女性獣医師の相談窓口を設置している	1	1	1	3	4	4
ポータルサイトのバナーを掲載している	34	39	46	49	50	52
地区学会で託児所を設置している	—	—	—	—	4	7

会での対応が求められるとしてきた。いったんはホームページの求人サイトの改善で対応することとされたが、改めての検討が強く期待される。

相談窓口の設置についても少しずつ対応が進んでいるがまだ少ない。女性獣医師活躍推進委員会でも早くから必要性は認識されていたが、他団体の相談窓口等とのリンクにとどまっている。令和6年に実施した獣医師の就業環境に関する現況調査（日獣会誌78巻370～378頁 川手日出子氏の論説をぜひ参照されたい。）で、メンタル面のサポートが求められていることが明らかになっている。女性だけでなくすべての、特に若い獣医師の離職防止のためにも検討が急がれる。

おわりに

令和6年から獣医師法第22条の届出の性別の回答は任意となった。女性獣医師の割合は34.8%（令和4年は34.9%）、性別無回答が3.7%であった。女性獣医師の割合は年齢が若いほど高く、20代は52%と半数を超え、30代、40代、50代も約4割。分野別では、小動物診療と公務員は約4割、産業動物診療も2割を超えた。

地方獣医師会の役員も、職域部会の役員も、管理職等指導的な立場に立つ年次を迎えた女性獣医師の増加に伴って増えており、今後も確実に増えることが見込まれる。そろそろ女性獣医師の活躍推進といわなくてもよい

のではないかと、女性獣医師活躍推進委員会で検討が進んでいる。

「はじめに」でご紹介したとおり、2020年目標「女性役員がいない地方獣医師会は1名は女性に、いる地方獣医師会は複数名を女性に」の後半の目標は、5年遅れたが昨年達成された。前半の目標はまだ達成できていない（図3）ため、昨年からこの部分を「女性役員ゼロ地方獣医師会をゼロにする」と言い換えている。女性役員ゼロ地方獣医師会はまだ6地方会も残っているのだ！ 獣医大学の学生は男女半々を超えて、昨年6割が女性となった。彼らが就業し、獣医師会の会合に参加したとき驚かないように、景色、環境を変えておくことが急がれる。

女性の地位向上のために国連が定めた「国際女性デー」は3月8日。ミモザの花が咲くころだ。52回目となる今年、まだ旧態依然とした意識が残ってはいないか、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）を把握しているかなどをもう一度点検し、これからの課題とされる「共働き共育て」の実現、男女ともに家庭責任を担いキャリアアップもできる環境づくりの動きに乗り遅れないようにしたい。

（地方獣医師会数）

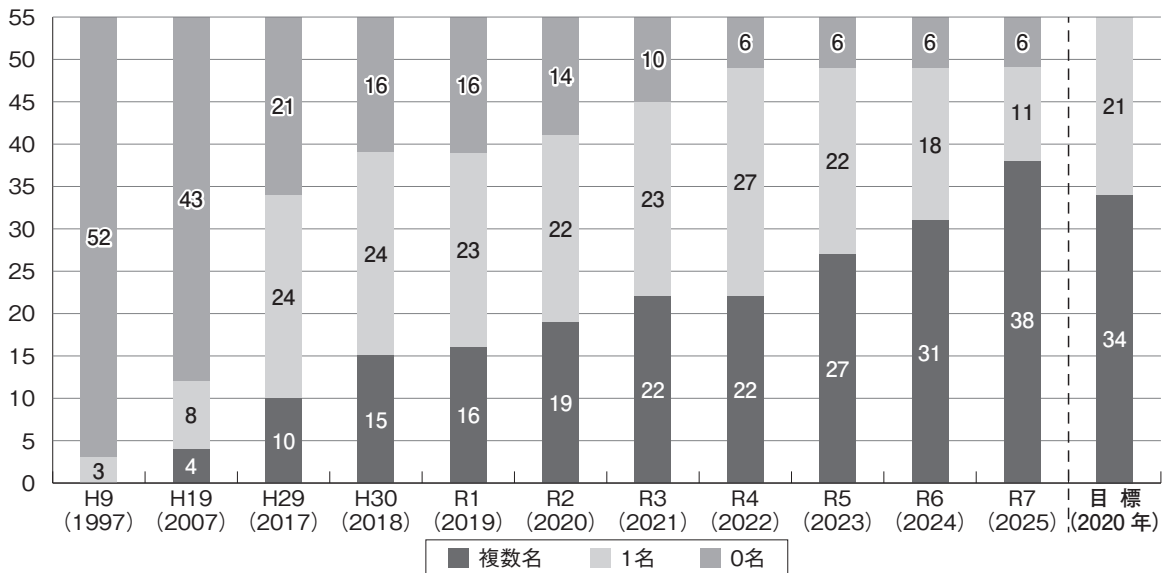


図3 地方獣医師会における女性役員就任数別の推移